

南禪寺^{なんぜんじ}方丈の林泉は、奇石巨巖阻て雲夢七沢を開くの仙境なり。方丈東間は鳴滝の図花鳥等は古法眼元信の筆、中間廿四孝は狩野永徳^{かのえいとく}、西間同筆にして花鳥の画なり、西表一之間古法眼筆、同其次の間次第三間共に竹に虎の画世にこれを水呑虎といふ、何れも狩野探幽^{かのたんいう}の筆なり。

○南禪院^{なんぜんゐん}は南の方にあり、亀山^{かめやま}法皇の離宮なり。中央^{ちゅうおう}亀山^{きんざん}法皇宸影^{しんえい}〔表牘云、先功德主亀山太上覺皇崩■、嘉元三年九月十五日〕此堂内三間俱に狩野常信^{かのつねのぶ}の画なり。

亀山^{きざん}法皇御廟^{ごべう}は南の上方貳町にあり。当院の林泉は東南鮮にして、実に日月を扶助するの靈境なり。抑当山^{たうざん}は寺記に云、弘安年中^{きざん}亀山上皇^{きざん}こゝに離宮を営て仙居し給ふ、厥后宮^{そののちみや}を喜捨^{きと}して寺となし、大明国師^{たいみやうこくし}を住職し給ふ。又至徳三年七月勅^{せんざつこ}して禪刹^{ぜんさつ}五山之上^{さんしじやう}と称す。建武元年十一月行幸^{ぎやうかう}は園大曆に見へたり。

○金地院^{こんちゐん}は五山僧録司^{そうろくし}と称ず。此院の林泉佳境にして名巖多く、心といふ文字に双置りとぞ。傍に鎮守^{ちんじゆ}昭堂^{せうだう}あり。南の方に御宮あり。此方丈は南面にして、中之間仙人尽、左右ともに花鳥みな狩野尚信^{かのなほのぶ}の筆なり。其外当院玲瓏として此山の佳境なり。

南 禪 寺 方 丈 虫 干 之 体

東 達磨 靈源 出山釈迦 遂翁 東 之間 狩野永徳筆 小十六善神	卓 御書之間 永徳筆 山水 仇英 観音 牧溪 観音 唐画 擧
--	--

大十六善神 琴 碁 書 画 孫道 西 之間 永徳	漢羅六十 康富記 勤修寺経広卿筆 文珠 釈迦 思恭筆 普賢 鶴 之間 古法眼 七朝国師香陽 最嶽和尚 蘆葉達磨 南院国師 自画讃 漢羅六十
--	---

眠鷗之凶 万国禎

百丈禪師真相

臨濟禪師真相

普明國師真相

羅漢 西金居士筆
自畫贊

夢窓国師像

象画 思恭

後之間 狩野主馬

最獄賛

本光国師頂相

常信

梅

安信

鶴

竹

龜山法皇宸像

龜山法皇宸翰和歌

鳴
滝
間
古
法
眼

後醍醐天皇宸翰

龍淵室之額
後陽成院宸翰

応菴像

桃洞寮
什物

此殿後陽成院之清涼殿也

柳之間
古法眼

祖師筆

[illegible]

山水

金雞 就驚

竹竹

林良

趙子固

舟行水鳥飛起閣

鉄拐

達磨探幽虎之間

蝦蟆探幽

林長

文進

可窮

雲溪

可窮

蘆鴈
蘆鴈

三友堂閣

荷鷺

文珠

荷鷺

山水子果

龜山法皇勅賛

大明國師頂相 虎之貳之間 探幽

後柏原院宸翰

山水子果

龍龜大南虎

龜山法皇宸像
大明國師頂相
南溪國師頂相

探函探函探函探函探函

示以俊墨蹟
梵仙

文珠

釈迦
 兆殿司
 虎之三之間

普賢探幽

開山國師香陽寧一山

清拙齋
馬公顥
平田賛

文 珠
藥 山 岡
開 山 頂
藥 山 岡
高 步 達

南禪寺^{なんぜんじ}什宝の中に、菅神の鐘銘（三幅）烏枢沙摩明王（一幅）永仁七年^{きざん}龜山上皇の勅書、正安以降繪旨、国宣、院宣、建武中官符、足利家古証文及び將軍家の施捨文等あり。其外塔頭古書軸を蔵むる事数百通におよびければ、筆するに際限なし。

○塔頭^{たつちやうしやうるん}聴松院の林泉風色幽雅にして、庭に礪礪の水鉢あり。又菅神夢想の名松あり、老木の大樹にてありしが近年衰枯して朽たり、故に植継あり。其銘曰、

南禪寺^ノ聴松院者惠鑑禪師所^{スル}住也。会伝一夜夢^ム北野神君^{フニスト}賜以^{スル}殊所^ノ珍賞。松一株^ヲ覺後感銘無^シ已^{ムコト}。乃早洒^{シテ}掃庭^ヲ内^一ト^{シテ}地待之果^{シテリ}。自^ニ菅家^一贈^ニ一盆松^一与^ニ夢所^一見^ニ合^{スト}云^レ此蓋我曩祖也。然^{トモ}不^レ知^ニ其為^{ルコトヲ}ト^{キニ}誰向者^一予有^リ故遊^ニ于此寺^ニ賞^{スルコト}觀^{スルコト}。有^レ年矣。青蒼鬱茂株根数困。實是数百年物也。寛政辛亥今住持正巖禪師乞^ニ予詩^一。之因賦^一一律^一。応^ス其需^ニ。

青松百尺接^ニ天開^一。

曾入^ニ高僧夢裏^一来。

林下誰知^ル奉^{スルコトヲ}神託^一。

庭前^ニ偏好^ニ挺^ニ凡材^ヲ一。

計^テ年社風外潮音起^一。

仰^テ德雲間龍影回^ル。

元自奇句在^リ二人口^ニ一。

千秋併賞賦^{セス}中梅^一。

特進 菅原胤長